令和５年度

運営に関する計画

中間評価（全体会）

令和５年１０月２４日

大阪市立南住吉小学校

（様式１）

大阪市立南住吉小学校　令和５年度　運営に関する計画・自己評価（総括シート）

目指す子ども像	自ら学び、深く考える子　ねばり強く、最後までやりとげる子 健康で、たくましい子　みんなで力を合わせてがんばる子
学校教育目標	「一人ひとりのよさや可能性を伸ばし、確かな学力を基盤として生きる力を育む教育活動を推進する」

１　学校運営の中期目標

【安全・安心な教育の推進】

（１）安全・安心な教育環境の実現

・「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を向上させる。

（２）豊かな心の育成

・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を向上させる。

・「自分に良いところがありますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を向上させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

（１）誰一人取り残さない学力の向上

・全国学力・学習状況調査における平均正答率の向上をめざす。

（２）健やかな体の育成

・全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の向上をめざす。

【学びを支える教育環境の充実】

（１）　教育ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）の推進

・１人１台端末を活かした学びの充実を図る。

・児童の心の状態や日々の状況を可視化し、いじめ・不登校などの未然防止・早期発見と迅速な対応に努める。

（２）人材の育成としなやかな組織づくり

・働き方改革を推進し、過度な勤務時間の延長を防ぐ。

（３）家庭・地域等と連携・協働した教育の推進

・ＰＴＡや地域による学校支援の取り組みを推進する。

・地域学校協働活動を進める。

令和４年度の総括と今年度の課題

現状と課題

昭和 33 年に開校した南住吉小学校は、多くの地元民から愛され地域の小学校としてその役割を担ってきました。最近は、子どもの数が減少し、大阪市の小学校でも再編統合や一貫校への編成替えが進んでいますが、本校は学校選択制を利用した校区外の入学希望者が増加し、住吉区で最も児童数の多い大規模校となっています。多くの児童を抱える本校においては、例えば、家庭でのネット環境の違いや配布プリントの煩雑さ、更には様々な家庭環境による対応の難しさなど、困難な状況が多くみられます。また、いじめ問題については、暴言等への対応の充実が求められ、日常的な会話や遊びの中にみられるいじめ行為への指導体制の充実が課題として認識されています。このような現状に鑑み、今後は全教職員の意識を高め「チーム南住吉」として全員が学校を運営しているという思いを持ちたいと考えています。昨年度、配置された体育の専科指導加配や主幹学校司書に加えて、本年度は副校長の配置が実現しました。引き続き、大阪市教育委員会や住吉区役所等からのご支援をお願いするとともに、児童の健全育成を目標に教職員が一丸となって取り組んでいくことを強く決意しています。

２　中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 85%以上にする。
・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

1．「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか」の項目で肯定的回答の割合の 90%以上を維持させるとともに更なる向上をめざす。
2．望ましい集団の育成に向けて、学年のまとまりを高める取り組みを学期に１回以上行う。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 40%以上にする。
・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より３ポイント向上させる。
・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。
・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 50%以上にする。
・小学校学力経年調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 60%以上にする。

学校園の年度目標

1．小学校学力経年調査における「国語」の基礎欄の標準化得点を前年度より向上させる。
2．小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を増加させる。
3．小学校学力経年調査における「英語の勉強は好きですか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を増加させる。
4．小学校学力経年調査および本校が行う児童生活振り返りアンケートで「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を増加させる。
5．全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、各種目の計測値の向上をめざす。

【続き】

２　中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

１．ＩＣＴの活用に関する目標を次のように設定する。

・デジタル教材を活用した朝学習を週１回以上実施する。

・学習者用端末を活用した家庭学習を学期に１回以上実施する。

・協働学習支援ツールを用いた学習を学期に１回以上実施する。

２．教職員の働き方改革に関する目標を次のように設定する。

・年次有給休暇を１０日以上取得する教職員の割合を 70%以上にする。

学校園の年度目標

１．授業と家庭学習で学習者用端末を活用する回数を前年度以上にする。

２．「心の天気」「相談申告機能」等の利用頻度を高め、ＩＣＴ活用を推進する。

３．主幹学校司書と連携を強化し、授業での学校図書館利用を増やし、読書指導を進める。

４．働き方改革を進め、残業時間の軽減を図る。

（様式２）

大阪市立　（学校園名）　令和５年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標１　安全・安心な教育の推進】 全市共通目標(小･学校) ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 85%以上にする。 ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 学校の年度目標 １.「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか」の項目で肯定的回答の割合の 90%以上を維持させるとともに更なる向上をめざす。 ２.望ましい集団の育成に向けて、学年のまとまりを高める取り組みを学期に１回以上行う。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【１、安全・安心な教育環境の実現】 ◎いじめへの対応 本校の「いじめ防止基本方針」を提示するとともに「南住吉小学校安心ルール」を周知させ、全教職員と児童、保護者が理解したうえで、いじめの未然防止といじめ対応を行う。また、暴言等の日常生活の中で行われるいじめ行為について、教員の問題意識を高め、対応を強化する。 指標 「いじめについて考える日」に全校集会を開き、学校長からいじめに対する講話を行う。また、各教科横断的にいじめにかかわる授業を毎学期、「思いやり週間」を学期に１回行うことで、いじめに対する考え方を深化する。年間の教育活動を通して、規範意識の醸成や仲間を認め合う集団育成を行い、いじめを生みにくい環境づくりに努める。また、教職員に対しては、学期に１回いじめに関する研修会を開催する。	B
取組内容②【１、安全・安心な教育環境の実現】 ◎不登校への対応 不登校の児童が登校しやすい学校環境を作る。また、関係機関との連携強化に努める。 指標 不登校の児童やその家庭と密で丁寧な連携を図るとともに、関係諸機関とも協力し、児童や家庭に寄り添い、児童に合った登校の形を組織としてできる限り実現する。	B
取組内容③【１、安全・安心な教育環境の実現】 ◎問題行動への対応 「南住吉小学校安心ルール」にのっとり、問題行動への適切な対応を行うとともに、問題行動の未然防止に努める。 指標 「南住吉小学校安心ルール」を年度初めに児童や家庭に周知し、年間を通して組織的にルールにのっとった一貫した指導を行う。また、児童には毎学期始めにルールを再確認するとともに、日々の生活指導にそのルールを適応する。また、問題行動が起きないよう、毎学期「生活点検週間」を実施し、本校が特に大切にする１０のルールの意識付けを行い、規範意識の醸成を行う。	B
取組内容④【１、安全・安心な教育環境の実現】 ◎児童虐待等への対応 家庭との連携を密にし、ヤングケアラーやネグレクトを含む虐待等についてカウンセリングマインドを持って対応する。また、区役所や子ども相談センター等の関係機関との連携を強める。 指標 児童の日々のようす（行動、発言、服装、体へのあざなど）を、しっかりと観察し、気になることがあれば職員間で連携して対応する。また、関係諸機関とも連携をとりながら、対応にあたるようにする。	B
取組内容⑤【１、安全・安心な教育環境の実現】 ◎防災・減災教育の推進 警備及び防災計画に基づき、消防署・警察署・区役所と連携し、防災に対する児童の意識を高める。また、各教科と関連付けて、防災・減災教育を進める。	B

指標 火事、不審者、地震・津波への避難訓練を学期に１回以上実施する。また、教職員の防犯意識を向上させるために警察と連携し防犯に関する研修会を実施する。	
取組内容⑥【２、豊かな心の育成】 ◎人権を尊重する教育の推進 様々な体験活動を通じて「自他ともに大切である」という心情を培う。また、暴言等を含めて、人が嫌がる行為をしないという教育を徹底する。 指標 戦争体験談、車いす体験、視覚障がい体験など、全学年で体験的な学習を計画的に実施する。道徳・総合等で、マイノリティ（障がい者教育、国際理解教育、外国人教育など）を理解・尊重する学習を計画的に実施する。年２回以上、人権教育研修に参加し、指導者の人権意識を高める。	B
取組内容⑦【２、豊かな心の育成】 ◎インクルーシブ教育の推進 インクルーシブ教育を推進させるため、支援の在り方を工夫する。また、自校通級のモデル校として、通級指導の研究・実践を行う。 指標 児童理解の研修会や個別の支援計画の活用、実践報告、支担会および学年会への参加を計画的に行う。また、自校通級指導の研修会を行う。	B
取組内容⑧【２、豊かな心の育成】 ◎キャリア教育の充実 キャリアパスポートを利用し、年間を通してキャリア教育の充実を図る。 指標 キャリアパスポートを学期初めに書くことで達成できる目標を設定し、学期終わりには振り返りを行うことで、自分の成長に気づき、自己有用感を高める。また、大きな行事を記載することで、行事を通して協力することや他者のために頑張ることの良さに気づけるようにする。	B

（様式２）

大阪市立　（学校園名）　令和５年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標２　未来を切り拓く学力・体力の向上】 全市共通目標(小学校) ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 40%以上にする。 ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より３ポイント向上させる。 ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 50%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 60%以上にする。 学校の年度目標 １.小学校学力経年調査における「国語」の基礎欄の標準化得点を前年度より向上させる。 ２．小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を増加させる。 ３．小学校学力経年調査における「英語の勉強は好きですか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を増加させる。 ４．小学校学力経年調査および本校が行う児童生活振り返りアンケートで「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を増加させる。 ５.全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、各種目の計測値の向上をめざす。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【４、誰一人取り残さない学力の向上】 ◎言語活動の充実 国語科を要として、言語活動の充実を図る。また、各学年で身に着けたい基礎・基本的な学習事項（漢字・読み取る力・計算領域）を定着させる。 指標 基礎・基本的な学習事項について、考課テストで８０％の児童が８割以上を取れるようにする。	C
取組内容②【４、誰一人取り残さない学力の向上】 ◎「主体的・対話的で深い学び」の推進 自分の考えを持ち、豊かに交流できる子どもを育てる。 授業はもとより、あらゆる教育活動を通して、コミュニケーション能力や読解力の向上に努める。 指標 授業の中でペア学習やグループ学習を積極的に取り入れるよう工夫する。	B
取組内容③【４、誰一人取り残さない学力の向上】 ◎英語教育の強化 新しく配属となったC-NETおよび中学校からの英語加配の先生との連携を強化し、小学校教員として英語教育に主体的に取り組む。また、モジュール授業、絵本・DVDなどの教材を有効に利用し、英語に親しむ機会を増やす。 指標 ・教員が日常会話の英語を活用できるように年１回以上の研修を行い、共通理解を図る。 ・週２回のモジュール授業の計画と実施、絵本・DVDの活用を進める。	B
取組内容④【５、健やかな体の育成】 ◎体力・運動能力向上のための取組の推進 専科指導教員と担任との連携を強化し、専門的な指導を取り入れた効果的な体育指導を行う。また、すべての児童が運動に親しむ機会を多く持てるように工夫する。 指標 ・学期に１回全学年で運動に親しむ機会を設ける。	B
取組内容⑤【５、健やかな体の育成】 ◎健康教育・食育の推進 手洗いや清潔なハンカチ・ティッシュを携帯する習慣を身につけさせる。 栄養・給食指導を通して、好き嫌いなく食べることの大切さを理解させる。 指標 ・学期に一回強調習慣を設ける。 ・年２回、栄養指導の時間を設ける。	B

（様式２）

大阪市立　（学校園名）　令和５年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標３　学びを支える教育環境の充実】 全市共通目標（小学校） １．学習者用端末を活用した授業の回数を増やす。 ２．学習者用端末を活用した家庭学習の回数を増やす。 ３．教員の勤務時間の改善を図る。 学校の年度目標 １．授業と家庭学習で学習者用端末を活用する回数を前年度以上にする。 ２．「心の天気」「相談申告機能」等の利用頻度を高め、ＩＣＴ活用を推進する。 ３．働き方改革を進め、残業時間の軽減を図る。 ４．若手教員の育成に努め、研修の充実を図る。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【６、教育ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 ◎ＩＣＴを活用した教育の推進 各教科の取り組みとして、児童一人ひとりの学習理解度や課題に応じたデジタルドリルやオンデマンド教材等の充実を図る。また、双方向オンライン学習の実施に向けて、授業配信を目標に試行を続ける。 指標 ・授業に ICT（デジタルドリルやオンデマンド教材等）の活用を積極的に取り入れる。	B
取組内容②【６、教育ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 ◎データ等の根拠に基づく施策の推進 児童の学習・生活の様子や教員の指導状況など、可視化できるダッシュボードを活用し、問題の迅速な対応や個に応じたきめ細やかな指導をめざす。また、「心の天気」「相談申告機能」「いじめアンケート」等の機能を活用し、生徒指導に役立てる。 指標 ・ダッシュボードの活用を習慣化する。 ・「心の天気」の入力を習慣化させる。	B
取組内容③【７、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ◎働き方改革の推進 教員の働き方改革を推進し、少しでも教職員の負担が軽減できるように、大阪市教育委員会との連携強化や大阪教育大学との連携を模索する。 指標 教職員の負担軽減を図るために、仕事量の軽減とそのための人的・経済的支援について検証する。 ・小学校専科指導加配により、本校では高学年を中心に体育の専科授業を行う。また、教科担任制の導入に向けて積極的に取り組む。 ・大阪教育大学と連携し、大学院生の実習受け入れを行う。また、実習とは別に、音楽指導の補助として大学院生を市教委の学びサポーターや住吉区学校補助スタッフとして採用し成果を検証する。	B
取組内容④【７、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ◎教員の資質向上・人材の確保 若手教員の育成に努め、教頭や新任研担当教員、メンターによる研修の充実を図る。また、「チーム南住吉」を意識し、学校行事を含めたあらゆる教育活動での協力体制の充実に努める。 指標 ・教頭を中心に管理職による若手教員への研修機会を、学期に１回以上実施する。 ・新任研担当教員による日々の研修を充実させ、個別指導に加えて４名の新任教員に対するグループでの振り返り指導を、毎月行う。 ・２年目・３年目の教諭を含めた若手教員への研修を、メンターをリーダーとして学期ごとに実施する。 ・学力向上支援チーム事業のスクールアドバイザーと連携し、２年目、初任者の研究授業を行い、授業力の向上をめざす。 ・いじめ対策への指導力強化を目指して、全教員による校内研修を学期ごとに行う。	B

【安全・安心な教育の推進】

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析
①　児童に対しては、「いじめについて考える日」に全校集会を開き、学校長からの講話を行った。また、その週には各学級でいじめに関する道徳教材を用いて、いじめについて考える授業を行った。また、毎学期「思いやり週間」を計画し、相手を想うことの大切さの指導進めている。その中で、ふわふわ言葉やチクチク言葉など、言葉の使い方や、相手に対する行動のとり方の指導も行っている。また、普段の学校生活や学習の中で、規範意識の醸成や仲間を認め合う関係づくりを意識的に行うなど、いじめが起こりにくい雰囲気を作りを行っている。いじめは許される行為ではないことを子どもたちは少しずつ理解していきている。また、教職員に対しては、学期に１回の研修会を開き、いじめに対する考え方を深化したり、学級経営方法を学んだりしている。また、定期的に、事案が懸念せれたり発生したりするごとに「いじめ対策委員会」を開き、学校としての対応にあたっている。
②　家庭と学校で蜜に連携を取り合い、部分登校や登校できる日を設定するなど、できるだけその児童に合った登校の形をとることができている。また、場合によっては関係諸機関とも連携を図り、不登校児童に対する対応を進めることができている。また、学級や学年では、児童が登校しやすい雰囲気や仲間づくりを行っている。
③　「南住吉小学校安心ルール」を児童や保護者に明示することができた。また、学期始めには、各学級でそのルールの確認を行っている。そして、問題行動を起こした児童に対しては、その児童のよりよい成長のため、また被害児童保護のため、そのルールにのっとり学校として一貫した対応をとることができている。また、毎学期「生活点検週間」を計画・実施することで、本校の中心ルール「１０のルール」の意識付けを行うことができている。
④　児童の日々のようすをしっかりと観察し、気になることは学年団や学校全体で共有することができている。また、関係諸機関との連携もとることができている。
⑤　年度当初に、「警備及び防災計画」を教職員に周知することができた。その計画に基づいて、学期に１回の避難訓練を計画・実施している。児童は、１学期の火災の避難訓練で、避難経路を確認するとともに、避難方法や火災時の安全確保の方法を学習することができた。また、警察や消防車などとも連携をとり、避難訓練の指導講評に来ていただいたり、教職員の研修会を警察の方が開催したりしてくれた。研修会を通して教職員一人ひとりの防犯意識が高まるとともに、学校としてのよりよい対応方法の学びにもなった。今年度は、防犯意識をより高め、安全な学校にするために全教室に防犯ブザーを設置し、その使用方法を毎学期や、防犯訓練時に児童に周知している。
⑥　コロナ禍も収束したこともあり、体験的な学習をかなり行えるようになってきた。全学年では、折り鶴集会。６年生では、ピース大阪学習や広島への修学旅行。４年生では、沖縄戦についてのDVD 鑑賞。２年生では、視覚障がい者のために点字学習などを計画的に行えている。しかし、まだ全学年で、全ての内容を体験的に行えているわけではない。また、道徳の時間や総合学習の時間を通して、体験的な学習が体験だけで終わらないように、事前・事後学習をするなど、マイノリティーを大切にする人権学習を行っている。また、教職員に対しは、区の人権実践交流会への参加と、３区合同人権教育講演会への参加を計画的に考えている。
⑦　児童理解の研修会や個別の支援計画・指導計画の作成、学級担任と支援担当者の連携等を通して、インクルーシブ教育を推進している。また、自校通級教室について保護者会等で保護者に説明し、理解が広まるように努めている。
⑧　年度当初には、年間を通しての目標をキャリアパスポートに具体的に設定することができた。そして、学期終わりには、その学期の自分自身行動を当初の目標と照らし合わせて振り返らせることで、成長したことやさらなる課題に自分で気づくことができていた。また、運動会などの大きな行事に対する取り組みで活用することで、自分の成長だけではなく、みんなで作り上げる運動会という他者・集団意識を育てることができた。
今後への改善点

①　今後も児童に対しは、学校全体の取り組みや普段の学校生活を通して、いじめは許されるものではないということをより感じていけるようにしつつ、いじめに対する考え方を深めていけるようにしていく。また、教職員に対しては、学級経営方法やいじめに対する考え方をより深化していけるように研修会を開いたり、自己研鑽したりしていく。また、「いじめ対策委員会」適切に開催し、学校として対応していけるように今後とも取り組む。
②　今後とも、学校や家庭、関係諸機関と連携をとりながら、不登校児童に対する取り組みを進めていく。また、同時に不登校の児童が登校しやすい学校環境の構築にあたっていく。そして、少しずつでも登校できる日にちや時間が増えることで、自分の成長や登校することのよさを感じていける、よりよい循環を構築していく。
③　教職員全体の一貫した指導のもと、登校時間の改善や赤白帽子の着用率は向上した。しかし、廊下・階段の通行の仕方やトイレのスリッパの使い方など、課題は山積みである。大きなトラブルを生まないためにも、日常的にルールの指導をしっかりと行っていくと同時に、学校全体の取り組みをすることで児童の意識・行動改革を行っていく必要がある。また、大きな事案に対しては、今後とも「南住吉小学校安心ルール」にのっとり、学校として一貫した指導を続けていく。
④　今後とも、児童の小さな変化も見逃さないよう観察するとともに、気になることは共通理解を図り、学校組織とし対応に当たってく。その際、必要に応じて関係諸機関ともしっかりと連携を図っていく。
⑤　２学期には防犯の避難訓練、３学期には地震・津波の避難訓練を計画している。児童がこれらの訓練を自分自身のこととしてとらえ、より高い緊張感をもって避難訓練をおこなっていけるようにする。また、各教科との横断的な学習を通して、児童に防災・防犯意識を高めていきたい。
⑥　児童に対しては、今後とも計画的に人権感覚を涵養していけるような、体験的な学習や道徳、総合的な学習を行っていく。そして、その学びを普段の学校生活に生かしていけるように指導・啓発していく。また、教職員に対しては、研修会への参加を促すとともに、研修会での学びを学年間などで交流することで、本校の教職員全体の人権感覚を涵養していけるようにする。
⑦　引き続き学級担任と支援担当者の連携を深め、個に応じた支援の工夫を行っていくとともに、自校通級指導についての研修会を行い、本校の自校通級教室のより良い在り方を検討していく。
⑧　２学期末や年度末にも、キャリアパスポートを活用することで、自分自身の成長や今後の課題に気づかせ、児童のよりよい成長につなげていく。また、行事での活用には意味がるものの、フォーマットがあるわけではないので、行事に対する目標を設定させるなどの形式を今後検討していくことで、児童がより取り組みやすいものにしていく必要がある。また、記入形式が無機質的・形式的であるため、児童自身うまく活用しきれない部分もあるので、今後用紙の形式やその活用方法の検討も必要になってくる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析
① 基礎・基本的な学習事項の定着を図るため学年に応じた取り組みは継続的に行うことができている。しかしながら、考課テストでの正解率８０％以上の児童が８割という指標には達していない。
② 様々な教科でペア学習やグループ学習を積極的に取り入れ、だれもが主体的・対話的で深い学びを実現できる環境づくりをしている。
③ モジュール授業や ICT を有効に活用し英語に親しみ興味・関心を高めることができている。 また、研修も計画的に進められており、共通理解も図られている。しかし、モジュール授業を計画通りにできないクラスもある。
④ 体育専科と連携し、効果的な体育指導を行うことができている。 運動会やラジオ体操週間など全学年が運動に親しむ機会を設けることができている。
⑤ 日々の学習活動や清潔調べ、強化週間を通して、清潔な持ち物の習慣を身に着けさせるよう声掛けを積極的に行い啓発している。
今後への改善点
① 特に漢字の書き取りに課題が感じられるため、引き続き復習等を繰り返すことで定着を図る必要がある。また、漢字チャレンジ月間で集中的に漢字の定着を強化するとともに、個人差も考慮して個に応じた支援を行っていく。
② 引き続き、積極的にペアやグループ学習での意見交流の時間を取り入れていく。また、ペア学習やグループ学習において課題を明確にし、消極的な児童に声掛けを行っていく。
③ モジュール授業では Dream だけでなく，絵本・DVD 等も活用しながら，英語に親しむ機会をつくっていく。また，C-NET 教員、英語加配の教員とも連携しながら，より一層英語教育を充実させていく。
④ 引き続き、体育専科と連携を取りながら効果的な体育指導を行っていく。 ２学期からも、学期に一度運動に親しむ機会を設けていく。
⑤ 引き続き強調習慣や清潔調べを通してハンカチ等携帯するように呼び掛けていく。

【学びを支える教育環境の充実】

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析
①　各教科の授業において、デジタル教科書の使用やデジタルドリル・調べ学習での学習者用端末を活用するなど ICT の活用が進んでいる。デジタルドリルの活用については、学級によって実施頻度などに差がある。
②　「心の天気」の入力については習慣化されつつある。しかし、ダッシュボード機能については「活用の場面があまりない」などの意見もあり、その活用が進んでいない。
③　体育・音楽・理科などの専科教員のおかげで、高学年の負担は少しずつ軽減されている。低学年は専科がなく、空き時間がないため軽減されていない。また、教職員の仕事は依然として多く、働き方改革の推進については十分ではない。
④　研修については、計画に沿って進められている。また、メンターを中心とした研修は充実しており、若手教員の育成に努めている。一方、学級経営についての研修や若手教員への個別指導については不十分な点もある。
今後への改善点
①　デジタル教科書やデジタルドリルの効果的な活用について研鑽していく。また ICT を活用できる環境を充実させるために、電子黒板などの ICT 機器の拡充を検討していく。
②　ダッシュボード機能の効果的な活用についての研修が必要である。
③　個別対応が必要な児童が増えており、人員の確保を進めていく。特に低学年については、担任・支援担当以外にフリーで動ける人員を配置するなど、軽減に向けて人員の確保が急務である。また、教職員の仕事の量の差や学校行事・校務分掌などを見直し、必要のないものは廃止するなど軽減を進めていく。
④　若手教員の負担にならないよう配慮しながら、今後も学ぶ機会を充実させ育成を進めていく。また、育成担当以外も普段の授業の様子を参観し、学級経営や授業について助言するなど、学校全体として育成に努めていく。